

総合子ども学科の人材育成に関する目的と3つのポリシー 【学士（教育学）】

学部の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）	学科の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）
現代社会に生きる人間を理解し、よりよく生きるために、人間とその環境の多様性・複雑性を科学的・総合的に探求し、社会に生きる人間に関わる現実的な諸課題・諸問題に実践的に関わり、解決していく人材を育成する。	人間に対する深い洞察と尊敬をもちながら、子ども学という学際的視野から社会・文化・人間のあり方を問い直す中で身につけた知識や技能を活かし、子どもを取り巻く諸問題を他者との協働の中で解決することを通して社会に貢献する人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
DP1 知識・理解	(1)	保育・教育・福祉・医療・心理などの領域で構成される子ども学の知識を深く理解している。	<p>1. 保育・教育の場で必要とされる実践力、現場対応力を涵養する。保育実習や教育実習をより深い学びとするための事前・事後指導の質的な充実を図る。並行して基礎演習、教職実践基礎演習、保育表現技術、また幼保実践演習や教職実践演習を段階・発展的に履修する。下記にも示す地域・子どもに関わる実際の機会を通してこれら実践力を高める。</p> <p>2. 子どもに関わる諸問題について、実際の保育・教育現場との関連を示しながら提供し、視点や知識の自覚化に基づく自律した学びを進める（実際の現場で求められる力は何かという問いを持ち、追究する）。具体的には、地域や子どもに関わる機会を学生自ら企画・演出し、保育・教育現場における必要な視点や知識を自覚し、随意的に発揮していけるよう、子ども学演習および卒業演習において理論化を目指す。</p> <p>3. また、子どもの育ちに職業人として関わることの重要性の自覚とその責任感を涵養する。教育原理、保育原理、社会的養護といった教育・福祉の基礎理論に当たる学びに加え、子どもを総合的に学ぶ子ども学を履修する。これらを通して、教える者であるために必要な生涯学び続ける姿勢を養う。</p>	<p>総合子ども学科では、次のような学生を求めます。</p> <p>1. 関心・意欲・態度 子どもや保育・教育に関心を持って学びを深め、保育士資格、教員免許状を取得し、それを実社会に生かそうとする人</p> <p>2. 知識・教養 子どもや保育・教育について学ぶにあたり、必要な基礎学力※を修得した人 ※高等学校までに履修した教科の基礎的な知識</p> <p>3. 思考力・判断力・表現力 学んだことを基盤として合理的に考え、理性的に判断できる人 自分の考えたことを適切に表現できる人</p> <p>4. 協働性・主体性 進んで周囲の人たちと協働できる人 自ら考え、積極的に学ぶ姿勢を有する人</p>
	(2)	子どもの成長発達を支えるために必要な専門的知識や技能を身につけている。		
	(3)	子どもを取り巻く環境や事象が子どもの発達に与える影響や、保育者、教師、家庭・地域の人々が果たす役割について理解している。		
DP2 汎用的技能	(1)	保育・教育に関する数量データを含む情報を自らの問題意識に基づいて収集し、統計学の技法等を活用して、論理的に分析・考察することができる。		
	(2)	子どもの成長発達を支える現場の保育者、教師、家庭・地域の人々など立場の異なる他者に寄り添うことができる		
	(3)	他者の考えを受け止めながら自分の考え方が伝わるように表現し、問題の共有や解決のために協働することができる。		
DP3 態度・志向性	(1)	人間の成長発達の最も重要な時期に保育者・教師といった職業人として関わることの自覚と責任感をもっている。		
	(2)	従来のある方に固執することなく、目の前にある問題や社会的課題の解決を目指して学び続ける姿勢をもっている。		
	(3)	現場の保育者、教師、家庭・地域の人々など多様な他者と連携・協働し、子どもを第一に考えた判断ができる。		
DP4 統合的な学習経験と創造的な思考力	(1)	子どもの成長発達についての専門的知識や実践的な学びに基づいて、自ら計画を立案し、実践、振り返りのマネジメントを適切に行うことができる。		
	(2)	子ども学の知識と、保育・教育現場における様々な経験を統合し、自ら課題を発見し、問題の解決策を提示し、それを実践することができる。		